

旭労災病院ニュース

病院情報誌

増刊号

令和元年 07 月 吉日発行

発行所：旭労災病院

〒488-8585

尾張国中平子町北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

総合内科新設のご案内

総合内科部長

小栗 太一



平素より連携医の先生方には大変お世話になっております。

本年5月より旭ろうさい病院は新病院へと移転し新たなスタートを切りました。

新病院ではICUの新設や地域包括ケア病棟の導入など病院機能の大幅な増強とともに、研修医や専攻医、病院見学の学生も増加しており、当院の新しい時代の幕開けを感じております。

さて、新病院の移転ともに、もうひとつ新しく誕生したものとして総合内科の新設があります。

これまでも初診外来や専門科の通院を必要としない比較的安定した慢性疾患の継続診療の場として一般内科外来というものがありましたが、診療科としては明確に存在するものではなく若手医師やアルバイト医師が専門外の診療を行う場として提供されてきたものでした。

新しく診療科として誕生した総合内科は現在3年目の若手医師から10年以上の診療経験を有する医師が幅広く担当しており2019年7月現在は、外来の経験年数がまだ浅い若手医師が担当する曜日に対しては経験年数が多い医師がサポートするという体制をとっております。また毎週、総合内科外来を受診した患者様に対してよりよい診療を行うために、おこなった検査や対応は本当にそれでよかったのかの再検討や、通院中の患者様に対しての今後の検査や治療方針の検討を総合内科外来担当医が一同に集まりカンファレンスを行うという試みをおこなっております。

近年話題となっている我々が診断にたどりつくための思考としてDual process modelと呼ばれる方法論が提唱されておりますが、これはSystem1と呼ばれる直感的な思考とSystem2と呼ばれる分析的な思考を我々は無意識下で使い分けているというものです。突然の激しい頭痛を訴えた患者が来院されればくも膜下出血かもしれないというSystem1が働き、発熱と倦怠感を訴える患者が来院されれば複数の鑑別疾患を網羅的に検討するSystem2を我々は無意識で働かせています。

現在の初期臨床研修を終えたばかりの医師が外来を担当した際にまず直面するのがSystem1に頼りがちになってしまうという点です。これは初期臨床研修では研修医の仕事の多くは日中や夜間の救急外

来を多く経験してきているために診療のスピードを要求されることによってより直感的な思考をより優先的に鍛えていくことによると思われます。反面、一時的なトリアージのみではなく最終診断まで迫ることを要求される初診外来においては正確性を要求される System2 が重要になってくると考えられます。System1 のみでは診療スピードは早いのですが、最初に想起した疾患に固執するあまり矛盾する点を見逃したり、診療医の経験が浅い場合自らの経験した疾患に無理やり診断を落とし込むというバイアスがかかってしまう危険性があります。当院の総合内科の強みは診療科として上級医と若手医師、外来担当医と当院の複数の専門診療科医師との連携をこれまでより強固にすることによって System2 を補強し、より正しい診断に近づくといい点があげられます。医療の世界には数多くの種類の疾患が存在し、また複数の病態が複雑に関係している場合もあります。産まれたばかりの診療科でありまだまだ至らない点がございますが、旭ろうさい病院総合内科は病院としての機能を最大限に活かし、診断がついていない初診患者における診察や複合的なプロブレムを有する症例の適切なタイミングでの各専門診療科への橋渡しを行うことを目的としています。先生方の中にお困りの症例がございましたら、ぜひともご紹介いただけますと幸いです。

